

## 1月7日の筆者のこと

酒井 董美<sup>ただよし</sup>

## 5日にわが家で撮影

暮れの27日から5日までの10日間も、風呂に入ることもままならず、11日目の6日午後ようやく入浴できた。

今回の大風邪を引き込んだおかげで、生活は一変、健康のありがたさを再認識させられたというのが、ただひとつの収穫と言えれば言えるのだろうと思った。

横になっていてトイレに行こうとしても独りでは立ち上がることも出来ない。今までなら考えられもしなかったことである。家内に両手を持って引つ張り上げてもらったりしていたが、いつもそれでは困るので、身体を横に回転させて座り炬燵まで行き、それに縋って立ち上がるようにした。これが4日までのことで、5日からはどうやら自力で立てるように回復した。29日には静岡に住む結婚した孫娘が夫を連れて会いに来てくれたが、筆者の風邪を聴いて、方が一移つては新年の勤務に支障が出るといけないとマンションまで来ながら、家内とエントランスで話をしただけで帰って行かざるを得ない結果に終わった。筆者とは携帯電話で話しただけである。後は撮り溜めていたテレビドラマを観て時間をつぶしただけである。

普段はパソコンを駆使してメールをしたり、文章を書いたりするのが当たり前なのであるが、このことはとても無理。せいぜい朝夕メールチェックするのが関の山であり、前にも記したが Facebook の多くは緊急性の内容ではないので、読む元気もなかった。メールの中には、見舞ってくださる親しい方々に失礼をしてはならぬと。短文で近況を知らせるのが精いっぱいだった。

筆者が80歳を超えてからは、年賀状を出さぬよう挨拶をしてはいるものの、くださる方がいるので、返信するエチケットは失ってはならぬと6日までに来た85通には、返信を印刷し、自筆でのコメントを書いてくださっている方には一筆添え書きをして投函の準備をし家内にポストへ行ってもらうようにしするのに精いっぱいだった。

ただ、親しくしていただいている遠方の方々から、くださる書簡も溜まっているが、まだお一人お一人に添ったご返事は書くところまで元気は回復していない。取りあえず、このエッセイで筆者の現状を理解していただき、もうしばらく時間をくださるようお願いするばかりである。筆者の写真を冒頭に挙げたが、これは5日にスマホで家内に撮ってもらったのを掲載した。少し元気になりかけたところであるが、まだ風呂には入っていません、新年の雑煮を食べる気分にはならない状態のときの写真である。

ともかくひどい目に遭った。どこか健康を過信しすぎていたのかも知れない。かかりつけの医師の指示でPCR検査も行った。幸い陰性ではあったが、巷にはコロナウイルスが猛威を振るい、全国で4000人以上の発祥を伝えている。沖縄、山口、広島は緊急事態宣言を実施、県民の行動に縛りをかけなくてはならぬ状況のようである。全国的に第6波に入ったとのこと。「弱り目に祟り目」の現在である。(元島根大学法文学部教授)